

## 商品名 レミフェンタニル静注用2mg「第一三共」 医薬品基本情報

薬効	8219 その他の合成麻薬	一般名	レミフェンタニル塩酸塩注射用
英名	Remifentanil DAIICHI SANKYO	剤型	注射用
薬価	935.00	規格	2mg 1瓶
メーカー	丸石製薬	毒劇区分	(劇)(麻)

### レミフェンタニル静注用2mg「第一三共」の効能・効果

(全身麻酔の導入、全身麻酔の維持)の鎮痛、全身麻酔の維持の鎮痛、集中治療の人工呼吸中の鎮痛

### レミフェンタニル静注用2mg「第一三共」の使用制限等

1. 類薬で過敏症の既往歴、本剤成分又は含有成分で過敏症の既往歴、ナルメフェン塩酸塩投与中、ナルメフェン塩酸塩投与中止後1週間以内	記載場所	使用上の注意
	注意レベル	禁止
2. 肥満患者：BMI25以上	記載場所	用法・用量
	注意レベル	注意
3. ASA3、ASA4、循環血液量減少、重症高血圧症、心血管系に著しい障害、心弁膜症、不整脈、呼吸機能障害、慢性肺疾患、薬物依存の既往、痙攣発作の既往、気管支喘息	記載場所	使用上の注意
	注意レベル	注意

### レミフェンタニル静注用2mg「第一三共」の副作用等

1. 筋硬直、過剰な筋硬直、喉頭痙攣、換気困難、呼吸停止、血圧低下、徐脈、不全収縮、心停止、重篤な徐脈、ショック、アレルギー、アナフィラキシー、全身痙攣	記載場所	重大な副作用
	頻度	頻度不明
2. 呼吸抑制、低血圧、徐脈	記載場所	重大な副作用
	頻度	5%未満
3. 幻視、激越、振戦、鎮静、結節性調律、期外収縮、房室解離、洞房ブロック、心室無収縮、房室ブロック、潮紅、高血圧、嘔吐、腹痛、腹部膨満、紅斑、皮膚炎、乏尿、悪寒、冷感、ビリルビン増加、AST増加、LDH増加、ALT増加、血圧上昇、体温低下、術後血圧上昇、創合併症	記載場所	その他の副作用
	頻度	頻度不明

4. 譫妄、落ち着きのなさ、傾眠、徐呼吸、過換気、便秘、悪心、肝機能異常、発疹、一回換気量増加、鎮静合併症

記載場所 その他の副作用

頻度 5%未満

5. ショック、中毒症状、頻脈、高血圧、離脱症状、血液循環抑制、血圧低下、呼吸抑制、筋硬直、徐脈

記載場所 使用上の注意

頻度 頻度不明

## レミフェタニル静注用2mg「第一三共」の相互作用

1. 薬剤名等：ナルメフェン塩酸塩投与中止後1週間以内

発現事象 -

投与条件 -

理由・原因 -

指示 禁止

2. 薬剤名等：ナルメフェン塩酸塩

発現事象 鎮痛作用が減弱

投与条件 ナルメフェン塩酸塩を投与中又は投与中止後1週間以内

理由・原因  $\mu$ オピオイド受容体への競合的阻害

指示 禁止

3. 薬剤名等：中枢神経抑制作用を有する薬剤

発現事象 麻酔・鎮静等の作用が増強

投与条件 -

理由・原因 相互に作用を増強させ過度な麻酔深度となる

指示 慎重投与

4. 薬剤名等：アルコール

発現事象 麻酔・鎮静等の作用が増強

投与条件 -

理由・原因 相互に作用を増強させ過度な麻酔深度となる

指示 慎重投与

5. 薬剤名等：オピオイド剤

発現事象 麻酔・鎮静等の作用が増強

投与条件 -

理由・原因 相互に作用を増強させ過度な麻酔深度となる

指示 慎重投与

6. 薬剤名等：心抑制作用を有する薬剤

発現事象 徐脈・血圧低下等の作用が増強

投与条件 -

理由・原因  $\beta$ 遮断剤、カルシウム拮抗剤は共に徐脈、血圧低下作用を有する

指示 慎重投与

7. 薬剤名等：鎮静剤

発現事象 -

理由・原因 本剤は鎮静作用を有する

投与条件

集中治療における人工呼吸中の鎮痛

指示

注意

## レミフェンタニル静注用2mg「第一三共」の配合変化

1. 薬剤名等：チオペンタール

発現事象 沈殿

理由・原因 -

投与条件 -

指示 禁止

2. 薬剤名等：他の薬剤

発現事象 -

理由・原因 -

投与条件 -

指示 禁止

3. 薬剤名等：血液

発現事象 加水分解

理由・原因 血液由来の非特異的エステラーゼ

投与条件 -

指示 禁止

4. 薬剤名等：血清

発現事象 加水分解

理由・原因 血液由来の非特異的エステラーゼ

投与条件 -

指示 禁止

5. 薬剤名等：血漿

発現事象 加水分解

理由・原因 血液由来の非特異的エステラーゼ

投与条件 -

指示 禁止



薬学をはじめとする専門知識と情報処理技術が実現する高い信頼性と豊富な情報量

医薬品データベースの決定版 『DIR』